

## 2023（令和5）年度 京都大学 入試問題 文系 第1問 解答例

問一

ドラマとしての演劇では、観客は単に舞台上の俳優の演劇を見るのではなく、劇場における演劇の主体として俳優とも呼応しつつ、演劇のリアリティを創り出すということ。

問二

演劇では、劇場で俳優の演劇に呼応して、観客は進行の主体となりうるが、映画では、筋書きは結末まで確定されてフィルムに収められ、観客には左右できないと思われるから。

問三

近代劇では、鑑賞者に精神の自由がなく、日常生活のものまね演技を見る程度であれば、演劇を造って見せる側に回る方が、生きる自覚である主体性が得られると思われるから。

問四 \*文系のみ

あらゆる事物を、ひたすら自我拡大の欲望を満たすための手段とのみ捉えることで集成された、近代以降の人間精神。

問五

演劇は、観客が主体であり、劇場で俳優と呼応しつつ演劇を成立させていた。しかし、近代芸術以降、現代では、芸術も含めたあらゆる活動において、人間は各自の自我を拡大する欲望にとらわれ、あらゆる他者をそのために利用する手段としかみなさず、互いに断絶して自閉しているということ。